

# 水田を飼料基盤とした私の酪農経営

秋田県連盟・大雄村酪青研

## 高橋功

### ○私の経営内容

この記録は、北日本酪産青年研究連盟の研究発表大会の席上発表されたもので、我が国古来の米単作農業のみでは期待する所得倍増の実現は困難であり、さらに水田の老化防止と積極的若返り策のため、水田裏作または田畑輪換の強調される時、同君の発表は真に時宜に適したものと考へ心から敬意を表すると共にここにその概要を御紹介申し上げます。(編集部)

### ○私の村の概況

秋田県平鹿郡大雄村は、秋田県南に拡がる横手盆地の中央に位し、横手市より西方一〇キロの地点にあります。地勢は平坦で耕地は水田一、二六六畝、畑二二・九畝その他原野約四〇〇畝であります。

農家戸数は八六戸で、一戸平均の耕地は水田一・二畝、畑〇・二畝で農業生産物の主体は勿論水稲で、典型的な水稲単作地帯であり、水稲反収は平均三・二石で農家粗収入は四〇万円内外であります。私の部落は村の平均より耕地も少なく、水田一・〇五畝、畑〇・二三畝で原野もまったくない地帯であります。

以上が私の経営規模の概況であります。

サイロ 一基  
鶏舎 六坪

○営業改善の対策

単作地帯の私の地域においては、年間の労働ピークの高低も甚だしく、また現金収支の面も同様であり、単作なるがゆえに水田の増収のためには年々、金肥の多給と労働の集約化によつて解決しようとしたが、

改善の目標	対策

### 営業改善対策

農業粗収入の増大は望めず、他方生産費は高まるばかりでした。そこで小反別ながら田は乾田であり、家

からの距離も近いという条件に恵まれた私の家においては、昭和二十九年以来、次のような営業改善の対策をたてた。

第1表 裏作による水田利用の拡大推移

種類	29年	30年	31年	32年	33年	34年
	青刈飼料	20	30	40	40	50
青刈飼料	—	—	—	—	—	35
青刈飼料	—	—	—	—	—	25
青刈飼料	5	5	10	20	20	12
青刈飼料	10	10	20	10	10	—
青刈飼料	—	—	—	10	—	7
青刈飼料	—	5	5	—	—	—
青刈飼料	—	5	—	—	—	—
計	40	55	75	90	80	94
面積に対する%	26.6	36.6	54.0	63.2	58.0	68.0
面積	—	—	8	8	12	12

単位はアール 34年は一部予定

以上の改善目標に向つて昭和二十九年より実施してまいりました。

### ○自給飼料の生産

(水田利用)

前述のように私の地帯は水田純単作地帯であり、経営の有畜化にはどうしても粗飼料の生産が鍵を握るものでありますので、私は水田を高度に利用するために積極的な水田裏作を取り入れ、それと同時に年間、粗飼料の平均給与が必要と考え、昭和三十一年度より水田を転換して牧草を生産いたしてまいりました。

こうして逐年、水田の利用拡大を第一表のごとく行なつてまいりました。

昭和三十三年度の自給飼料生産状況は第二表の通りです。これらを乳牛、豚、綿羊を含めた家畜に給与す

第2表 自給飼料生産状況 (昭和33年)

作物名	面積	10%当量	総収量	利用法	
ライ麦	20	2,620	5,240	サイレージ 1,350kg 青刈で豚に給与	
実取大麦	10	600	600		
レンゲ	50	1,870	9,360	サイレージ 2,250kg 青刈 1,890kg	
畑					
紫かぶ	5	3,550	1,780	冬期乳牛に給与	
馬鈴薯	6	2,250	1,350	豚に給与	
デントコーン	7	375	2,620	サイレージ	
水田転換畑	主としてラデノクローパー	12	12,000	14,400	7回刈り青刈給与
畦畔	改良畦畔草	10	5,620	5,620	青刈乾草 2,709 kg 450 kg

第3表 裏作田、畑転換田の増収効果

水田区分	N施用割合	反当堆肥量	10%当量施肥量			10%当量収取(石)	備考	
			N	P	K			
水稲連作田	A	100	400	1.6	1.6	2.4	3.34	
	B	130	400	2.08	1.6	2.4	4.17	
3年連続裏作利用二毛作田	C	100	400	1.6	1.6	2.4	3.88	Aに比し16%増
	D	130	400	2.08	1.6	2.4	4.38	Bに比し5%増
2年牧草転換跡田	E	—	—	—	1.6	2.4	3.92	Aに比し18%増
	F	30	—	0.48	1.6	2.4	4.71	Bに比し13%増
転換飼料畑跡田	G	—	—	—	1.6	2.4	4.09	Hに比し9%増
	H	30	—	0.48	1.6	2.4	3.75	

第4表 反省と今後の対策

種目	29年		31年		32年		33年		
	千円	%	千円	%	千円	%	千円	%	
稲作	382	75	558	65.2	543	58.7	504	51.9	
養畜	牛乳・鶏卵	—	—	143	—	204	—	255	—
	馬	60	—	116	—	78	—	12	—
	豚	18	—	9	—	—	—	—	—
	綿羊	—	—	10	—	46	—	72	—
	計	3	—	—	—	—	—	5	—
計	81	15	278	32.5	329	35.6	344	38.8	
畑	換金作物	25	—	—	—	—	—	—	—
	自家野菜	15	—	15	—	15	—	15	—
	計	40	8	—	1.7	—	1.6	—	1.6
その他	労賃収入	10	—	5	—	38	—	24	—
	裏作換金	—	2	—	0.6	—	4.1	—	2.7
計	513	100	856	100	925	100	887	100	
支出	生産支出	千円163	—	千円354	—	千円373	—	千円295	—
	家計支出	320	—	359	—	397	—	375	—
	計	483	—	713	—	770	—	670	—
所得	37	—	138	—	155	—	217	—	

改善目標に求めたように逐年水稲は増収いたしてまいりました。昭和二十九年當時は平均反収三石であったのが、三十一年頃からは平均三・八石にまで高まつてまいりました。これには耕土の培養やその他耕種技

○土地生産性の比較

(水用裏作及び転換畑が稲作に及ぼす効果)

術の改善等も大きいと思いますが、なんといつても常に土壌に良質の堆肥や鶏糞を投入したことが地力を飛躍的に増進した結果であると考えられます。さらに水田裏作としての緑肥作物の影響も見逃せないものと思われまふ。

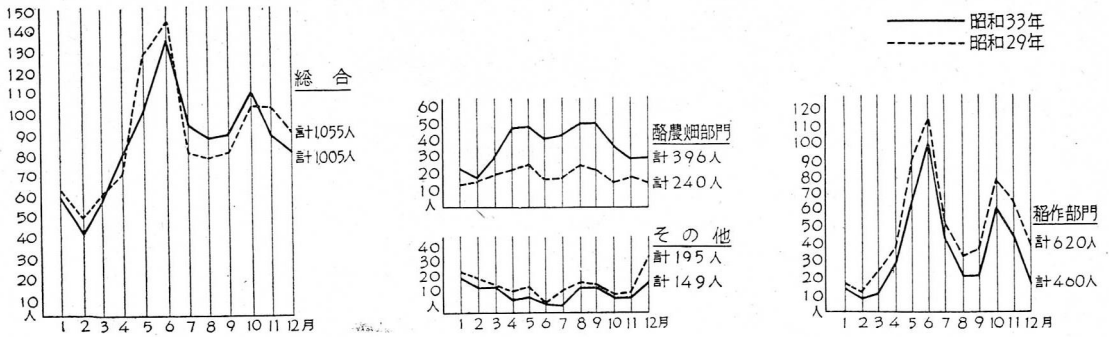
結果は第三表の通りであります。これを要約して述べますと、普通田に比し三年間裏作を行なった二毛作水田では約一〇%増収、また二年間牧草転換を行なったあとの水田では無窒素無堆肥で一六%の増加を見、反収四石七斗一升の収量を記録することができました。また、飼料転換田についてはそれを一年間行なった場合と、二年連続行なった場合では、後者は前者より九%収量が增大しています。

少となるとこれまで考えていた農家が多かつたし、私も正確にはどの程度の差があるかは解らなかつたのですが、今回の調査によつて自信を持つことができました。窒素増が全体を通じていずれも増収となつてい

○反省と今後の対策について

であり、今年の気象状況によるものと推測されます。

第 1 図



収支の状況の推移の表でお解りのごとく、畜産の占める比率が年々向上してきます。水稻が二十九年と現在では、二十九年当時二重価格制度で米価の相異もありますが、米の増収となつたことが大きな開きを生じております。

畜産の収入も逐年増大してはおりますが、今後畜産部門を稲作と同等以上に高めることが、私の念願で、乳牛の能力を高めること、さらに頭数を増加すること、それともない粗飼料の確保を水田に求め、転換飼料畑を増反し、可能なだけの裏作を作付すると同時にそれら生産飼料の乾草およびサイレーシ等による保存法と、正しい給与法を一層研究しなければならぬと思ひます。

ところが、こうすることによつて水稻部門の労力関係と相重なり、労働のピークが一層高まるおそれがあるわけで、現況においても第一図のごとく、年間労力の適正な配分はなかなか困難な実情にあります。今後これを打開するためには、水稻の省力栽培、家族間の分業を一層推し進めることはもちろん必要であります。さらになんといつてもグループの共同の力による大農具および施設の共同利用と分業体制を確立せねばならないと信じます。

×	×	×
×	×	×
×	×	×

荳科飼料作物類 (荷造送料共)

種類名及び品種名		価 格		反当播種量
		1キ	10キ	
耐病性品種 特撰種	赤クロバ	500	4,800	1.0~1.5
	白クロバ	540	5,200	1.0~1.5
	ニュージーランド産白クロバ	870	8,500	0.5~1.0
	ラデノクロバ	870	8,500	0.5~1.0
	クリムソク	450	4,300	1.5~2.0
	スイートクロバ(根瘤菌付)	450	4,300	1.5~2.0
	アルサイク	470	4,500	0.5~1.0
	四倍体アルサイク	700	6,800	0.5~1.0
ルーサン (アルファ)	デュピット(ハヤミドリ)	850	8,300	1.5~2.0
	アトランチック	820	8,000	
	バツファ	670	6,500	
	ワイリアムスブルグ	850	8,300	
	ナラガンセット	850	8,300	
根瘤菌付	ルーサン	550	5,300	1.5~2.0
	スイートク			
耐暑性品種	エジプシアン	800	7,500	1.0~1.5
	サブタレニア	800	7,800	1.5~2.0
	バークロー	800	7,500	1.0~1.5
	雪印改良白花えんどう	210	2,000	4.0~7.0
	無毒ルーピン(根瘤菌付)	200	1,900	6.0~8.0
米 国 産	コンモンベッチ(ザートウイッケン)	175	1,700	4.0~5.0
	ヘアリーベッチ(サンドベッチ)	250	2,400	4.0~5.0
	バズフット	950	9,300	0.5~1.0
	紫雲	210	2,000	6.0~8.0
	レスベデーザ(やはずそう)	520	5,000	2.0~3.5
荳科飼料作物(各種)試作用小袋各袋		各1袋	30	